

第76回全国人権・同和教育研究大会 分科会・分散会報告一覧

学校教育部会

第1分科会 「人権確立をめざす教育の創造」 10分散会 (関西学院大学)

分散会番号	報告書・資料集番号	県人同教名	報告題名 ※確定したものを記載ください。	所 属	報告要旨
1分散会	①	徳島県	年齢を超えてつながる心 ～異年齢児交流から見た子どもの育ち～	社会福祉法人鴨島ひかり会鴨島中央認定こども園	3～5歳児による異年齢児交流「わくわくタイム」を通して見た子どもの育ちと、園全体で育ちを支え合う体制づくりをめざした実践を報告する。
	②	兵庫県	「じぶん大好き！みんな大好き！」 ～みんなちがってみんないい～	芦屋市立精道こども園	就学前教育保育施設では、遊びや生活全てが人権教育の場となる。絵本や歌を活用し、子どもたちの人権を大切にしているかを振り返り、保育者はじめ全職種の職員が自らの人権感覚を磨くことに取り組んだ実践報告。
	③	大阪府	協力して平和なまちへ	堺市立大仙西小学校	出会った時のAは、何か自分の感情をうまく表現できていないようであった。人権総合学習を通して、さまざまな人と出会い、それぞれの思いを紡ぎ、つなげ続けた。地域や仲間とつくる学びから、Aは将来を描き始めた。
	④	大阪府	個に応じた受け止め方の重要性・つながる安心感	小中一貫校むくのき学園 市立啓発小学校	新しい学級に対して大きな不安を抱えてスタートしたりョウコ。保護者ともうまく関係を築けず始まった1年間。少しずつつながりを見つけ、前向きに考えていけるように向き合い続けたことやこれからに向けた課題について、担任・専科担当、それぞれの視点より報告する。
2分散会	⑤	愛媛県	「おじいちゃん おばあちゃんにあいたいな」	大洲市 認定こども園 悠園	近隣の介護施設など様々な人と関わる体験をする事で保育の充実を図っている。コロナ禍ではリモートでしかできなかった交流から、実際に利用者の方と会う事で、より一層人と出会えた喜びを味わう事ができるようになった。
	⑥	高知県	クラスが心地よく過ごせる居場所になることを願って	香南市立野市保育所	4歳児クラスのAとB。二人それぞれの自分の思いや考えを言い合えるよう保育者が気持ちを汲み取って関わることで、刺激を受けたり遊びの経験を広げる成長のきっかけを作っていた実践の報告になります。
	⑦	大阪府	「お父さんみたいになりたい」	貝塚市立第二中学校	「友だちのことが大事やし、ほっとかれへん」と言うA。差別を許さない生き方を学ぶ地域学習で、Aの保護者が自分自身の生き方を語る姿から保護者の存在への憧れを抱くとともに、なかまとの関わりが深まる。
	⑧	大阪府	「こうであるべき」から「これもいいやん」への 変換 ～しずなどの出会いをとおして～	市立大国小学校	教員となり17年。今までは「こうであるべき」という考えのもと子どもたちと寄り添ってきた。大国小学校でのしずなどの出会いをきっかけに、私の中での「こうであるべき」という考えから「これもいいやん」という考えに変換した2年間の記録を報告する。
	⑨	滋賀県	なんで先生の言うとおりにせなあかんの？	彦根市立佐和山小学校	みんなと同じことが正しいという教育観を覆してくれたAさんとの出会い。「学校とは何か」また、私自身の教師としての願いと個の尊重の間の葛藤を報告します。
3分散会	⑩	大分県	「もう1回謝る。本当にごめん」	大分市立川添小学校	自分の思いを伝えることが苦手なれんさん（仮名）は友だちとのトラブルが多かった。れんさんの困りやきつさをどう受けとめ、信頼関係を築いていくかを、また安心して思いを伝え合うためにはどうすればよいかについて考え、取り組んだ実践報告。
	⑪	愛媛県	「魚島へ行かせてくれてありがとう」	上島町立魚島中学校	上島町魚島の「さざなみ留学」では、全国から児童生徒を受け入れ、保護者との連携を密にとりながら、学校・家庭（寮）・地域が一体となって支えている。不登校経験の子も仲間や地域の中に自分の居場所を見付け、安心して挑戦し成長しており、祭りや伝統行事の復活など地域全体にも新たな活力が生まれている。
	⑫	兵庫県	こども日本語教室みきっずとして子どもたちと共に 過ごし ～多文化多言語の子どもたちを取り巻く状況～	こども日本語教室 みきっず	こども日本語教室みきっずは外国人児童・生徒の日本語・学習支援と地域交流を促進。現在17名が在籍し音読や多様な地域活動を通じ社会性を育む。今後は学校連携、支援者増加、進路支援など多角的対応が求められる。
	⑬	大阪府	「Aすごい！ありがとう！」 ～子どもの顔が上がる人権総合学習～	池田市立ほそごう学園	「べつに」「どうせ」が口癖のAに寄り添い、思いを共有した。人権総合学習のとりくみの中で、仲間の「すごい！ありがとう！」という言葉が広がり、クラスに温かい学びが生まれた。
	⑭	大阪府	「わたし、力になる」 ～サクラの大きな成長～	市立平野小学校	入学時から登校に不安や困り感を感じていたサクラと保護者が、いろいろな人との関わりから少しずつ前向きに学校に来れるようになった。入学時から5年生までのサクラと過ごした様子について報告する。
4分散会	⑮	熊本県	「今言わんともやもやが残るけん、言ったがいいよ」	益城町立広安西小学校	クラスの中に、人権劇団『光座』のメンバーとして活動しているゆうさんがいる。「光座はなまづくり」と話すゆうさんのお母さん。人とのつながりやなかまの温かさの中で育っているゆうさん。その温かさが、みんなに広がっていく。
	⑯	香川県	願いや思いに寄り添いたい ～関わりからみえたもの～	三豊市立藤間小学校	「自分って愛されとるんやな。」教職員、センター職員、保護者がそれぞれの立場で、真剣に彼に向き合ってきた。私たちおとなが一人の子にどう寄り添い、どう行動すればいいかを試行錯誤してきた5年間の記録。
	⑰	大阪府	Aの顔を上げたい ～日本語指導の立場から見えるもの～	茨木市立葦原小学校	自分のルーツを語れずに生きているAと出会った。Aの顔を上げたい、Aが安心して自分を出せる学年集団にしたいという思いでとりくんだ人権学習。Aの姿が私たちに問うものをみなさんといっしょに考えたい。
	⑱	奈良県	「俺、先生と頑張りたいたいねん」	御所市立大正中学校	Aは相手を傷つけるなどの問題行動が多く、私はその理由に悩んでいた。しかし、それらの悩みを抱えながらもなかまと関わろうとするAの姿や、Aに対してつながろうとしたなかまとの関わりや、私自身の向き合いがあった。それらについて報告する。
	⑲	京都府	安心基地（キーパーソン）を築いた2年間	八幡市立南山小学校 (2024年度教員)	家庭環境の変化から自分の気持ちをコントロールすることができずに悩んでいたA、校内でチームとしてさまざまな寄り添いの中で自分の居場所を見つけ、成長していくAの姿や周囲の関わりについて報告をします。

5 分散会	⑳	徳島県	子どもの自立に向けた仲間づくり ～人との関わりを通して～	阿波市立 市場小学校	決めつけや偏見で人を判断するのではない。仲間を信頼し、互いの特長を生かして補い合いながら人間関係を築いていける力を身につけることが、子どもにとっての本当の自立や自己肯定感の高揚につながる。
	㉑	大阪市	ゆりあと過ごした3年間 ～誰もが安心できる居場所をめざして～	市立大宮中学校	1年生の時から不安定な環境で生活し、不登校傾向になっていたゆりあとの関わりを大切にしてきた。3年間でさまざまな出来事に遭うも大宮中学校での居場所を確立し、同級生と共に笑顔で卒業していった。学校としてさまざまな機関と連携しながらどのように関わってきたかをゆりあのことばと共に報告する。
	㉒	奈良県	ともだちが知ってくれたから・・・	橿原市立新沢小学校	「たたくからあの子は悪い子」相手の一面だけを見て決めつけるのではなく、一人ひとりの様々な面を知ってほしい。そして、安心できるクラスをめざして『ペアを重視した学び合い学習』と『相手のことを知る』取組から少しずつ変わってきた子どもたちの姿を報告する。
	㉓	滋賀県	「大切な人が私の周りからみんないなくなる」 ～Aさんの心の拠り所をめざして～	甲賀市立土山中学校	家庭の事情が大きく影響し、精神的に不安定になる生徒に対して、安心して学校に通えるためにどうすればよいのか考え、信頼関係構築に向けて継続的なコミュニケーションに取り組んできた実践についての報告。
6 分散会	㉔	愛媛県	石垣の段々畑に生きる	八幡浜市立真穴小学校	天にまで至るみかんの段々畑とそれを支える石垣からは、故郷のために一つ一つ根気よく取り組んできた先人の生き方を知ることができる。みかん作りの学びは、脈々と受け継がれる故郷づくりの学びに他ならない。
	㉕	香川県	みんなですめる人権・同和教育 ～1人の100歩より100人の1歩～	善通寺市立西中学校	差別のない社会の実現に向けて、全ての学校で同和問題学習をはじめとする、人権教育を推進する必要がある。その第一歩として、教職員が人権意識を高め、生徒に寄り添い、人間関係を構築していく。
	㉖	島根県	目の前の子どもたちに関わるということ ～「校長先生は人生の恩人です。」～	益田市立益田東中学校	生徒の不登校や人間関係の課題に直面した前任校で、校長（報告者）が子どもたちと向き合い、個別支援と学校全体の取組をおして少しずつ実践を積み重ねることで、改めていいねに関わることの大切さを実感した取組を報告します。
	㉗	京都市	人権教育を基盤とした学校の取組 ～A児との関わりを通して～	京都市立金閣小学校	本校では「自分や友達を大切にする子」を目指し、人権教育を基盤とした取組を進めています。誰もが安心して、自信をもって自分の思いを実現できるよう、日々の取組と取組による個の変容について発表します。
	㉘	三重県	「みんながいたから頑張れた」	志摩市立浜島中学校	登校しづりがあったAは自分の思いを学級に伝えたいと思うようになった。周りの子どもたちはAの思いを知り、つながっていく。部落問題に学び、日々、取り組む中で、Aや子どもたちは自分の生き方を考えていった。
7 分散会	㉙	長崎県	地域の人権課題の授業化と実践の広がりを求めて	五島市立盈進小学校	カネミ油症事件による人権課題を地域の子どもたちにも考えてもらいたいと願い、当事者からの聞き取りをはじめ、五島人権教育研究協議会を中心に協議を重ね授業案を作成していきました。地元行政との連携等、実践の広がりを求めて取り組んだことを報告します。
	㉚	徳島県	ふるさとを愛し 心豊かに たくましく生きる生徒の育成 ～語り合える仲間づくりを通して～	阿南市立 加茂谷中学校	交流し、語り合うことを大切にしてきた本校の人権学習。識字学級への参加により、仲間と共に学び合うことの素晴らしさに気づいたAさん。語り合うことで人権問題を解決していこうと成長する生徒たちの姿を報告する。
	㉛	兵庫県	自他を大切にし、互いを認め合って、ともに生きていこうとする児童の育成をめざして	太子町立龍田小学校	多様性に関する教材の開発、実践に学校全体として取り組むことで、系統立てた指導が行えるようになった。今後も時代の動向や新しい人権課題に対し、アンテナを高くし学び続けるとともに、保護者や地域の方々とも連携し、児童の育成に努めていきたい。
	㉜	奈良県	豚や牛のいのちから部落問題を考えよう	広陵町立真美ヶ丘第一小学校	部落差別に出会ったときに（それはおかしい）と気づき、自分で考え行動できるようになってほしいと、学習を行った。身近な「豚や牛のいのち」から学習を進めた過程や子どもたちの様子などを報告する。
	㉝	新潟県	「だから見る必要があるんだ」	胎内市立きのと小学校	部落について厳しい差別の話しかできない。それは、部落を「差別を受ける場所」と捉えていたから。そんな私を変えてくれたのは、母親から部落出身を知らされた後、部落差別に向き合おうとするAの逞しさだった。
8 分散会	㉞	鹿児島県	「手話があったほうがうれしいでしょ。それがわかって嬉しかった」	薩摩川内市立隈之城小学校	難聴学級に在籍する6年生のかいとさんは、地域の中学校に行きたいという願いをもっている。報告者はそれに応えようと、人と人をつなぎながら、中学校や校区内の小学校で難聴理解のための授業を行っていった。
	㉟	香川県	登校が難しい訪問学級生と校内生を互につなぐ	県立香川丸亀支援学校	重度の障がいや病氣により登校が難しい高等部3年の訪問学級生2名と校内生や指導者との小学部からの交流。なかまを意識できるようにと作った人形やリモート学習、スクーリングをとおして互いに得られたものについて報告する。
	㊱	大阪府	知れなくても知ろうとする	和泉市立富秋中学校	自分の気持ちのコントロールががてで、もめることが多かったAが、友だち、保護者、教職員とのかかわりの中で成長したこと、授業実践がもたらした子どもたちの成長から私自身が学ばせていただいたことについて報告します。
	㊲	大阪市	私の知らない福祉の世界 ～社会的に孤立させないために～	市立北津守小学校	不登校、ネグレクト、非行、虐待など、様々な家庭環境の中で生活をしている児童。学校は児童や各家庭に対して様々な支援・対策・配慮の中で向き合っている。しかし、それは学校だけが対応している訳ではなかった。関係各所の連携が非常に大切であることに気づかされた。

9 分散会	③⑧	徳島県	“自分是大切だ”と思える学校づくり	県立池田高等学校定時制	人権教育は日常の学校教育の核となるものであると再認識し、生徒が「自分是大切だ」と実感できる学校づくりに取り組んでいる。本校の特性を活かした取組について、生徒の変容とともに報告する。
	③⑨	大阪府	本当の気持ちを伝え合う友だちをつくりたい ～子どものよさを信じて～	松原市立布忍小学校	すれ違いと葛藤を重ねてきた6年生のAとB。地域活動や人権総合学習「タウン・ワークス」で出会ったロールモデルの姿に学び、自らを見つめ、仲間と語り合うことでつながりを深め、成長していった姿を報告する。
	④⑩	三重県	A,Bの関わりと成長 ～子どもたちの姿を見て～	桑名市立成徳中学校	AとBは、自分の不安や願いについて話すことをとおして人とつながっていった。そして、最後に二人の課題としていたことが交わった。また、私自身が生徒の姿や言葉から「人とつながる」とはどういうことなのか、自分自身を振り返ったことを報告する。
	④⑪	石川県	ハンセン病療養者の短歌を読む	石川県立加賀聖城高等学校	全日制高校の国語の授業で、ハンセン病療養者が詠んだ短歌を教材として6時間の授業を実施。当事者やその家族が受けた過酷な偏見・差別とその思いが詠み込まれた短歌を生徒とともに読んだ授業の様子を報告する。
	④⑫	埼玉県	一期一会 ～石川一雄さんの「灯」より～	朝霞市立朝霞第三中学校	振り返ると、自分にとって多くの出会いがあって現在の自分がいる。そしてそれらの出会いが、私に目標をくれた。今の自分の心の中には、一雄さんから灯された火が一筋の光のように揺れている。これを消さずに繋いでいきたい。
10 分散会	④⑬	熊本県	「やさしい4年5組が大好きだよ」 ～生きる。りんさんと芽生とともに～	大津町立大津小学校	平川さんの子ども、芽生さんは病氣を持って生まれてきた。同じ病氣を持つ子どもとその子の母親との出会いがあり、ともに活動を続けてきた。芽生さんのことを教材化し、目の前の子たちに『生きる』ことを問いかけていった実践。
	④⑭	大阪府	みんなでやろうや！	大東市立四条中学校	周りの仲間との関係づくりに悩んでいるA。自分にとっての当たり前と周りの人の当たり前が違うことで生じるつらさがある。お互いのことを知り、もちあじを認め合うことで、つながりを深めることを考えていく。
	④⑮	大阪府	オサムの成長 ～最後の一步を踏み出すことの大切さ～	やたなか小中一貫校 市立矢田南中学校 特別支援担当	全市募集でやたなか小中一貫校、矢田南中学校に進学した特別支援学級に在籍しているオサム。学校へなかなか行くことができない状況が続いた7年生からこれまでの学校生活や学校行事を通して、教員や友達との関わり方や気持ちの変化について報告する。
	④⑯	石川県	生き直し、共に生きる	津幡町立 津幡南中学校 保護者	報告者は障害のある娘と生活する中で自らの差別意識に気づき、その子と地域で生きる道を選ぶ。そして、娘が多くの友達と関わり合い、つながり合える学校生活を目指し、行動してきた。報告ではその様子を描いている。
	④⑰	神奈川県	多文化共生の学校づくりをめざして ～ある高校の取組を中心に～	神奈川県立相模向陽館高等学校	本報告ではある高校の多文化共生に関する課題を明らかにし、その解決のために行った取組を紹介する。校内体制の変革、指針づくり、生徒たちの反応などの一部を示し、高校での多文化共生教育を考える一助としたい。

第2分科会 「自主活動」 2分散会

(エル・おおさか)

分散会番号	報告書番号・資料集	県人同教名	報告題名 ※確定したものを記載ください。	所 属	報告要旨
1 分散会	①	高知県	こんなステキな中学に…	高知市河ノ瀬児童館	子どもの声から中学会が再発足して3年が経過した。3年間の活動と子どもたちの変容、そして私自身の部落問題との関わり、子どもたちとの関わりの中で指導員として学んだことについて報告する。
	②	大阪府	居場所と学習が両立する学校外の場を目指して	特定非営利活動法人IKUNO・多文化ふらっと	報告者の所属するNPO法人が大阪市生野区の地域で取り組む、学習支援事業をはじめとする場づくりの現場を例に、子どもの権利を守ることを根幹に据えることで居場所づくりと学習の両立を目指す実践を報告する。
	③	三重県	迫間「高校生の集い」から「つどい」へ	志摩市迫間教育集会所「つどい」	今年度から青年も参加することになった迫間「つどい」が、部落問題解決の担い手の活動の場となるように活性化するとともに、高校生たちが意欲的に集まれる場にしたいと考えている。
	④	東京都	南葛定時制で同和教育を受けて	都立白鷺特別支援学校	南葛飾高校定時制に入学し、部落出身の仲間と出会い、同和教育を受けた。そのことで生き方が変わり、後に教員となった。改めて自分の変わり目や課題を振り返り、同和教育の意義を明らかにする報告とした。
2 分散会	⑤	熊本県	「つらそうな雰囲気だったから、ギョッとした。」	東海大学付属熊本星翔高等学校	人権・同和教育主催者として学習会に通う報告者が、家族と一緒に参加する様になり、家族の成長を通して学習会に参加することや共に学ぶことの意味、世代を超えたなまづくりの豊かさを感じている。
	⑥	徳島県	対話を通して育まれた共生の心	那賀町立鷺敷小学校	一人一人の意思を尊重し、お互いが一人の人間であることを理解してほしいとの一念で対話を重ねるうちに、子ども同士でも対話ができるようになった。ここでは、対話を通して見られた子どもたちの変容を報告する。
	⑦	大阪府	差別とたたかってきたまち ～変わることができている気がする～	八尾市立志紀中学校	「ほかの人に任せます」と、仲間とのかかわりや教室という社会に対して、無関心な態度をみせるAが、部落問題学習を通して、偏見や思い込みから解放され、自分らしさに向き合いたした姿について報告します。
	⑧	三重県	「ひとりで抱えこまなくていいんだよ」 ～人権フィールドワークの活動をおして～	三重県立相可高等学校	本校で毎年度行われる人権フィールドワーク。地域の人との交流をおとして、いきいきと活躍していた、フィリピンにルーツをもつA。そんなAの長期欠席をきっかけに得た、私自身の気づき、学び、葛藤を報告する。

第3分科会 「進路・学力保障」 4分散会

(近畿大学)

分散会番号	報告書・資料集番号	県人同教名	報告題名 ※確定したものを記載ください。	所 属	報告要旨
1分散会	①	高知県	Aさんが学級の一員だと実感できる学級づくり	土佐町立土佐町中学校	日本語を母語としないAさんが「特別な存在」ではなく「大切な仲間」として受け入れられる、共生社会の土壌を育む学級づくりについて報告する。
	②	大阪府	「ここがあってよかった」 ～不登校支援の取組から学校の在り方を考える～	市立北稜中学校	2019年度から『リソースルーム』を設立し、2022年度には『ステップルーム』を開設した。これらの部屋は生徒の多様なニーズに対応し、不登校の生徒や通常学級での支援が必要な生徒へのサポートとして機能している。一人ひとりの子どもが、自分のペースで登校し、共に学習を進め、社会的成長を遂げつつあることを報告する。
	③	滋賀県	「こんなことしたら、3歳のお部屋じゃなくて2歳のお部屋に行ってもらわないといけないよ。」 ～Aさんとの関わりから学んだこと～	草津市立草津第二保育所	保育者として、Aさんに「そんなことしたら2歳児クラスに行ってもらおう」と言葉を投げつけた私。周りの人と話をする中で気付いた私や社会にある差別意識に焦点をあてながら、就学前の進路保障とは何かを考えたい。
	④	新潟県	壁をつくっていたのは私だった	上越市立城北中学校	部落にルーツがあるA。部活を退部し、放課後学習会を休みがちになったAに正面から向き合うことができなかった私。Aや保護者とのかわり方について悩み、迷いながら取り組んだ実践と私自身の変容を報告する。
2分散会	⑤	福岡県	「僕と一緒に差別をなくすための行動ができる人になってもらいたいです」	田川市立鎮西小学校	地域・学校での仲間づくりや、保護者と学校がつながることにより、主体的に活動することが苦手なAが、不安や迷いを乗り越え、仲間と一緒に差別をなくしたいと語るなど、主体的な姿へと変容していく実践を報告する。
	⑥	徳島県	将来につながる居場所づくりをめざして ～徳島市八万中学校「学習室」の取組～	徳島市八万中学校	将来につながる居場所づくりのために、校内に別室登校できる場所（学習室）を設置。そこに通級するAさんと、保護者、教職員の三者の変容と関わりを3年生の1年間をまとめたもの。
	⑦	大阪府	そのままの自分でいられる居場所をめざして ～カイト、33期生とすごした2年間～	市立真住中学校	レノンとカイトは保護者から暴力を受けていることがわかった。うそをついてしまうレノンとよく話すのに、大事なことは言わないカイト。どちらも学校で落ち着かないときは家庭で問題が起きているときが多い。それぞれの家庭とどのように関わるか、子ども相談センターと連携をとりながら2年間を過ごした。
	⑧	京都府	「3年間でAが手にしたもの」	綾部市立東綾中学校 (2024年度教員)	教室に入ることでできなくなってしまったAが、スモールステップで自信をつけることや、仲間の協力を得て成長し、自分と向き合い、仲間とつながり、希望進路を実現した取組の報告をします。
3分散会	⑨	熊本県	「あなたが心配・・・。」	県立北稜高等学校	人間不信に陥っていた報告者が、家族・恩師・地域の方々と出会い、励まされる中で自分の在り様をみつめ直し、人のあたたかさに気づき、学んだことを生徒に返ししながら、人として教師としての生き方を保障してもらっている。
	⑩	高知県	「『練習中』という宝もの」	土佐市立高岡中学校	Aさんは中学1年生であり、友人関係に大きな不安を抱えていた。Aさんの自閉症の特性を「練習中」と表現することで、周囲の生徒が互いを受け入れ合い、温かく変化していく様子を描いた。また、学校全体でチームとして行ってきた具体的な支援体制を示した。
	⑪	大阪府	今できることを一生懸命頑張る	茨木市立三島中学校	ヤングケアラー状態にあったA。学校で「子どもの権利条約」を学び、自分の権利が侵害されていることに気づく。人権サークルのなかまとともに活動し、自分の生き方をひろげていくAの3年間を報告する。
	⑫	奈良県	チームで支える・生徒の成長する姿	私立奈良女子高等学校	中学校では不登校で自閉症と識字障害のA。関係機関との連携も含め、学年の教員全員で関わってきた。Aの姿を不思議そうに見ていた生徒たちも、彼女の特性を理解してともに前向きに学校生活を送っている。そんなAと教員、クラスの様子を報告する。
	⑬	埼玉県	【発見】があふれる学校にしたい！ ～共に生きる社会に向けて私自身がすること～	児玉郡市解放教育研究会	特別支援学級を担当して、8年がたちます。通常学級との「壁」を感じながら、子どもたちから聞こえる【いっしょに】の切実な声をどう叶えていくかを考えてきました。8年間、子供達からもらった学びをもとに、「共に生きる社会」をもう一度考え直したいと思います。
4分散会	⑭	大阪府	地域とつながり未来につなげる ～いまいる場所から未来の居場所へ、豊かな進路保障のために～	府立福井高等学校	学校と地域、関係機関が多角的・日常的に連携し合う大切さについて提議する。得意分野や立場の異なる大人たちのつながりが、社会からとりこぼされそうな子どもへ「未来の居場所」という可能性を拓くことを伝えたい。
	⑮	大阪府	77期生の軌跡 ～77年後も笑い合える仲間をめざして～	小中一貫校須賀の森学園 市立淡路中学校	さまざまな取り組みや関わりを経て生徒と教員が共に学び、共に乗り越えてきた。74人という小規模だからこそ、クラスだけではなく、学年としてのまとまりを意識して過ごしてきた。その3年間の軌跡を報告する。
	⑯	滋賀県	「自分、まだまだっすわ」 ～びわ南高校生集会でAさんから問われたこと～	守山市地域総合センター	びわこ南部地域部落解放高校生等交流集会在30年間続けられてきた中で継承されてきたもの。副実行委員長のAをはじめ、高校生たちから私自身が問われたもの、その社会背景にある問題について検討したい。
	⑰	東京都	共に学べる学級を目指して	台東区立石浜小学校	誰もが一緒にいられる学級を作りたい。多様な子がいることを前提として、マイノリティの子が排除されない学級を作りたい。そう思ってAと関わった1年間を報告したい。

社会教育部会

第4分科会 「人権確立をめざすまちづくり」 4分散会 (大阪公立大学)

分散会番号	報告書・資料集番号	県人同教名	報告題名 ※確定したものを記載ください。	所 属	報告要旨
1分散会	①	香川県	多度津町における研修・啓発の取組について	多度津町教育委員会事務局生涯学習課	仲多度郡多度津町では、人にやさしいまちづくりを基本理念に、教職員・町職員を対象とした研修・啓発活動や郡内3町で連携した人権・同和教育活動を推進している。今回は、これらの取組や5年毎に実施している「人権・同和教育に関する意識調査」の結果について報告する。
	②	大阪市	識字の原点を受け継ぐ	住吉輪読会水曜組（識字・日本語教室）	住吉輪読会創立から59年間学び続け、今後も部落問題学習を引き継いでいく。学習者のうち半数以上が外国人で、差別を受けた仲間の気持ちを代弁する。識字で第二の人生が始まり、人権学習を中心に学ぶ。
	③	大阪市	ふたたび、「子どもたちに学校を返す」 「アトリエ西浜」の取組	大阪市人権・同和教育研究会	現在もある部落差別と大阪の子どもたちや学校の危機的状況を根底に、大阪市の同和教育の普遍的意味を広げる市民活動。それがアトリエ西浜（大阪市人権・同和教育研究会）である。市民活動として教育、地域をつなぐ取組を報告する。
	④	三重県	人文協活動を通して私たち親子が得た経験と大切にしている思い	神前地区子ども人権文化教育協議会	私たち二人は、親子での活動を通して、得た経験や大切にしている思い出を報告する。子どもの氣もちに寄り添っていくなかで感じたことや、差別や人権について深く考えるきっかけになってほしいという思いを報告する。
2分散会	⑤	愛媛県	ひいじいちゃんは孤児だった	松野町あおぞら子ども会	松野町あおぞら子ども会の子どもたちは、地域に学び地域の人に教わりながら活動してきた。聞き取りや体験を通して、ときには、とまどいや迷いを抱きながらも、人権問題を自分のこととして捉えていった。
	⑥	山口県	山口自主夜間中学校字部校の活動と、それを通じて私が思うこと	山口自主夜間中学校字部校代表	山口県宇部市に2023年4月に開校した自主夜間中学校。毎回約10名程度の老若男女が集まり、それぞれが学びたいことを学んでいる。なぜ自主夜間中学校で学ぶのか？自主夜間中学校を通じて学ぶ意義について考える。
	⑦	兵庫県	よそ者でもお客様でもなく共存者 ～あなたに、わたしに、何ができる～	淡路市人権教育研究協議会	淡路島に日韓ハーフとして生まれ、異質なアイデンティティを受け入れられずもがいた幼少期と、自分を認め自信を取り戻すまでの過程。そして、在住外国人と携わる職に就き得た気付きと日本で共存するための取り組み。
	⑧	大阪市	教室はふたつめの家族 ～日之出よみかき教室（木曜日）の活動から～	日之出よみかき教室（木曜日）	モヤモヤしたことを教室で相談すればすっきりする、困ったことを相談できる。みんなの国や地域の料理を作ったり、他の教室と交流したり遠足に行ったりする教室は第二の家族です。そんな教室の様子を紹介します。
	⑨	奈良県	屯鶴峯地下壕が語りかけてくること	香芝市人権教育推進協議会 NP0法人屯鶴峰地下壕を考える会	屯鶴峯の現存を確認してから32年が過ぎた。地元の聞き取りから始まった取組は、朝鮮人の動員などの史実を明らかにしてきた。多くの人に地下壕を知ってもらうために活動を進めてきた成果と課題を報告する。
3分散会	⑩	福岡県	識字の灯をつなぐ ～永岡支部識字60周年の節目を確かな一歩にするために～	筑紫野市立筑山中学校 部落解放同盟永岡支部	教育要求者組合から出発した永岡識字は、「文化」「創造」「伝承」を位置づけてきた。生活実態から「命をつなぐ食」の取組に広がり、「部落差別」の原因を見ぬき、闘うムラ人がいた。人をつなぐ優しさに担当者の変革と未来展望を話す。
	⑪	大阪市	全国識字学級実態調査・学級訪問から識字運動のこれからをみつめる	識字・日本語センター	全国識字学級実態調査実行委員会として2023年から全国の識字学級を訪問している。各地での活動内容がより明確になり、関わる人たちのエネルギーを感じ取ることができた。それらについての報告を行う。
	⑫	大阪市	住吉地区の「真実」を伝える ～人権が尊重される社会をめざして～	公益財団法人住吉隣保事業推進協会	現在、SNSなどインターネット上で被差別部落が暴かれ、晒され続けている。それに対して、『部落探訪』削除裁判や法整備を求める取り組みが展開されている。そのような中、大阪・住吉地区の「真実」を発信する取り組みについて報告する。
	⑬	京都市	コリアンオモニたちから学んだ、目からうろこの「生きのびる力」	NP0法人東九条まちづくりサポートセンター「まめもやし」	京都市南区東九条の鴨川堤防。かつてそこに生きたコリアンオモニたちから生の歴史を聞き続けてきました。彼女たちから学んだ「今日を生きる」知恵と、そのための「隠さない」コミュニティづくりをお伝えします。
4分散会	⑭	高知県	心の拠り所のある地域づくり	長岡西部スマイルファクトリー	長岡西部スマイルファクトリーのメンバーとして、地域活性や行事の企画運営、子どもの健全育成、人権擁護や伝統文化の継承などに取り組んでいる。今回、自身の生い立ちや息子の成長を振り返り、長岡西部スマイルファクトリーの在り方、また市民館(隣保館)職員として地域住民や子ども達との関わりやそれに対する思いについて紹介する。
	⑮	鳥取県	「あなたは あなたのままで すばらしい」 ～子どもたちの未来を信じて～	認定NP0法人ハーモニイカレッジ	子どもたちに「自信と誇りを！」を掲げ、社会教育の場として牧場を開いています。馬を通じて人間力を磨き、自己と向き合い、他者を思い、人馬共に育ち合っていく事例と大人の具体的な関わり方を紹介します。
	⑯	大阪市	和太鼓活動を通じて人とのつながりができた	浅香太鼓集団「獅子」リーダー	浅香太鼓集団「獅子」は1998年に結成され、37年が経過。結成当時こともあったメンバーが大人になるにつれ、活動意義を考えるようになり、人とのつながりができ、地域づくりを考えるようになった経過と実践を報告。
	⑰	滋賀県	『ひとりみんなのために、みんなはひとりのために』	特定非営利活動法人 子育てサポートきらきらクラブ	母の胎内にいるとき、生まれた瞬間、すべての子どもが、生きる道を選ぶことができ、未来を描ける環境を提供する、それが子どもに関わるおとなである私たちの責務である。大切なのは家庭・地域そして関わるおとなの姿。
	⑱	三重県	「女性住職が観る現世」	真宗大谷派 常願寺	今も私たちの中に「住職は男性」、女性住職は「男性の代わり」という意識がある。女性の役割は、家事育児介護という役割ばかり。その刷込みに対する気づきと意識啓発、女性支援、制度改革について報告する。